

# 研究者と民間助成のマッチングを促進する民間助成DBの開発

田上 款\*、大西 将徳、菅井 佳宣  
(京都大学 学術研究支援室)

## 要旨

民間助成は、約4000もの団体が多様なファンドを運用しており、事業規模は年間1000億円以上と言われている。一方で政府系のファンドと比べると、数の多さや個々の財団が独自に事業報告を行う等、財団横断的にデータを見渡すことが困難である。上記の課題を解決し、研究者と民間助成の最適なマッチングをURAが効果的に進めるため、民間助成データベース(DB)の開発に着手した。本DBでは現在公開されている既存の民間助成DBに比べて、各財団の横断検索機能の強化を指向した。まずは約500の民間助成の基礎情報や経年情報を収集しDBの試行運用を開始した。本発表ではDBの運用課題と共に、URAが民間助成に関わる意義について議論する。

## 背景

大学・研究者への研究資金



・民間助成財団

- 団体数：約4000団体 → 多様な研究助成
- 助成規模：1000億円以上
- 新規設立は顕著に減少 → 公募時期が固定

・政府・行政(文科省、内閣府等)

・独立行政法人など (JSPS、JST等)

・企業 (産学連携等)

・個人 (寄付金等)

参考文献：  
日本の助成財団の現状  
(助成財団センター)

科研費  
2300億円

科研費以外  
2000億円\*

\*競争的研究費制度による研究費

民間助成の研究助成規模は国の資金と比べて決して小さくない

## 課題と目的

### 課題：

民間助成は、その数の多さや個々の財団が独自に事業を行うこと等から、事業の公募や採択に関する情報等を横断的・網羅的なデータとして見渡せるものが存在しない。

この課題を解決する民間助成DBの整備

### DB整備の目的：

- ・民間助成情報のDBを整備し、研究者の民間助成獲得戦略をサポートする
- ・URAが科研費やCREST・さきがけのように民間助成情報を日々の支援のなかで意識できるようにすること

直近公募に関する情報は研究者に公開  
経年情報を含むDBはURA内公開

ぱっと  
お勧めできると  
良いんだけど

〇〇な民間助成を探しているんだけど

科研費だめだったけど何か良い研究資金ない？

とにかく採択率の高いファンドが知りたい

## DBの概要

最新動向一覧：基本情報を中心に整理し一覧表示

財団別情報にリンク

財団別基礎情報：財団カルテとして詳細情報を掲載

- ・横断検索機能の充実  
⇒ 網羅的な助成情報の取得を目指す
- ・採択率や採択課題など財団ごとの公開データを収集しDB可  
⇒ かゆい所に手が届く“深い情報”の取得を強化
- ・ソート / フィルタ機能の強化  
⇒ 採択率や公募時期などでソート・抽出可能

## 成果と展望

### 幅広い選択肢の提示

URAが民間助成を俯瞰的に捉え、研究者と研究資金のマッチングを思案。政府系の助成を含めて幅広い選択肢を研究者に提示が可能となった



### データの更新と正確性の担保

財団ごとに異なる公開情報やフォーマットからの正確なデータ収集とDBの更新は公開にむけて大きな課題



### 既存DBとの共存

大学単独で整備の必要性は必ずしも高くなく、他大学や助成財団と共同しながら共通のプラットフォームに発展させることが理想

